

# THE 対談！

今回は、広報部初の試みで永山校長先生と川原会長に対談をしていただきました。ここには載せきれないほどに野間小学校へのお二人の熱い思い溢れた対談でした。

校長：令和4年度が始まって2ヵ月が過ぎました。野間小の子供達はコロナ禍で制限するところもあるが授業や休み時間も元気に過ごしている。今年度1年やはり子供達に伝えたいのは夢をもってほしい。将来の仕事、自分がどんな仕事をしたいのかまたはどんな大人になりたい。そういったのを野間小の子供達にもっともっと広げていって 校訓「広がる夢を 輝く未来にかけよ」まさにこれを実現させたいと考えているところです。会長さんがこんな風な子供達に育ててほしいという願いを聞かせてもらえればと思います。



自分がどんな人になりたいか

失敗する経験



川原会長：昨年度の卒業式でも言ったような気がするんですけど、何かをきっかけに1分野に興味を持って、自分たちの子供の頃の時代と違い、ものすごいツールがあるわけじゃないですか。インターネットというものが、調べればいくらでも調べられる状態にあって。そして夢はなにかみつけました。知りたくて自分でネットで調べました。どうやったらそうなれるか自分で開拓できました。必ずどこかで壁にぶつかる。そのときに1回2回こけたところでなんともない人でいてほしい。まあ難しいですけどね。

## 何度転んでも自分で立ち上がる子

校長：挫折も一つの学びというか。それを乗り越えてまた一段アップするというね。

会長：ですね。だから学校で学んでいる間の挑戦というのはこけたところで先生がフォローしてくれるじゃないですか。親もいるし。学校という環境でいる間に失敗しまくってほしいんですよね。で周りには子は失敗したことに対して理解できる環境であってほしいというかそういう頭をもってほしいという感じですね。

校長：なるほどですね。



## 野間小戦隊トライガー

へんしーん  
パワー全開ジャー

校長：失敗というのをマイナスじゃなくてプラスにやっぱいいかせる。

あー失敗したでも次はこんな風にやってみたいという。

会長：ですね。

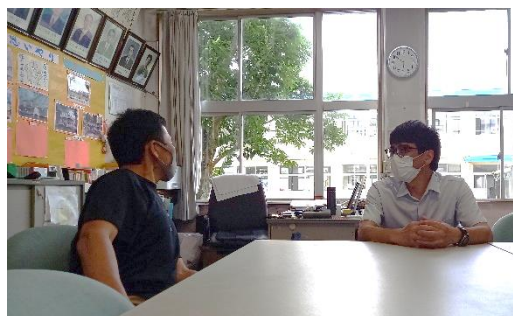
校長：一緒です。ほんとにこう失敗をしてもその僕はそこを「へんしーん」ということばで子供達には伝えて、自分がいくら失敗してもいや僕はこんな風になりたいんだと思ったら必ず「変身（へんしーん）」ができるっていう。

会長：ほーっそれであの仮面ライダーが。

校長：そうです。

会長：ほーっなるほど。

校長：こうやって言っても1年生とかはわからないんです。でもとにかく明日からいい変身をするよ〜とか言ったら子供達もあつわかった明日はがんばりま〜すっていう感じでまっその意味でも自分は変身のあれ（仮面ライダー）をまさに会長のおっしゃる通りですね。そういうところですね。



会長：だから気が合うんですね。

校長：あっはっはありがとうございます。いや〜でもほんとコロナ禍の中で体験活動がやっぱ制約されているのでそこがもどかしいとかですね。なんかこうもっと密になってこうしたいところもあるんですけど、それができずにそうするとやっぱり失敗する経験というのが狭まっているのかもしれないなっていうのがですね。

会長：相当狭まってますね。

校長：感じますね。そこをやはり感染対策はしていけないといけなんでしょうけど、できる限りそこをなんとか子供達に経験させたいなというのがですね。縮小したりするんでしょうけど、やっぱり経験、全くしないっていうのはしていったらいけない。少しでも経験をさせることが必要なのかなと。



会長：こけてなんぼですよ。

校長：ですね。はい。いやだと思えますよ。ほんと。

会長：こけないとなんていうのかな、人の気持ちがわからないじゃないですか。声かけられないじゃないですか。成功だけだと。その点はこけまくってるからいくらかでも声かけられるんですけど、私の場合。いくらかでもこけまくってますから。人の3倍くらいこけてますから。(笑)

校長：(笑) はっはっはっその話をするともう2時間くらいは・・・。

すべては子供たちのために・・・

今なにができるか

会長：受け身は上手です。相当上手です。

校長：やっぱ人間関係の中においてもそうかもしれないですね。受けて、しなやかさとかか大事なことですよ。そこをほんとPTAの方々と一緒に考えながら乗り越えていければ・・・自分がきたときからコロナなのでなかなかですね。もうあつという間に3年目に入ったのでそういう意味ではなんか自分の中でも消化不良じゃないですけど(笑) それぐらいありますね。

会長：なんか行事を最終的に校長先生が決定するわけで決定したあとも悩んでるらしいですね。これでよかったのかどうだったのかって。

校長：もうそれは自分だけじゃなくて、会長もですけど、みんななんかこうもどかしさがあるんですね。

## コロナ禍3年目

- 
- 



会長：でも会長になってわかったけど、役をもつと色々学校のことを知るじゃないですか。そうとうやってますよ。学校は。

校長：笑 そこはですね。我々も保護者の方からのいろんな意見はあるんですけど、やってもらってよかったというときもあるし、もっとこうしてほしいというのもでもそれは我々としてもうれしいとか、いただきたい声なのでいろんな意見がある中で決めることもできるというか、最終的にですね。全く保護者の方の意見がないと逆に自分もどう思っているのかっていうのがあっていろんな意見がくるというのは僕はすごくいいなと思っているので。

ほんとそこはPTAの方々との交流も制限されているというのも一つあるのかなと思うので今回こうやって対談とかたちでPTA新聞に掲載していただけるのは、最初はえっって思っていましたけど、実際こうして話してみるとなんかいいですね。

会長：校長先生と1回も呑みにいっとなんし・・・マスクをはやくとればよかとかや。でも教育長とかになつたらいえませんか。

校長：う〜ん。

会長：わかる。わかりますね。できればリスクをとってくれんかなと。コロナの緩和を。

Withコロナ

